

十一・協働・共同制作絵本

「手づくり絵本の会 プラス」協働制作

「手づくり絵本の会 プラス」は、絵本作りに興味関心のある人たちが月に一回、奈良市生涯学習センターに集まって絵本に関する話を話し合い、制作をします。この会の代表者が山岸清太郎さんです。六十八ページ下の写真は山岸さんが作った絵本の一部です。わたしもこの会の一員で、会社員、主婦、奈良教育大学の卒業生たちが各自の手作り絵本をもって集まります。時には協働制作をしました。

いままで奈良教育大学の教育資料館で学生たちが開催する『手作り絵本展』にプラスのメンバーは賛助出品をし、会場当番や地域の子ともたちが絵本作りをする手伝いをしてくれました。

ここで「共同」といわずに「協働」としているのには意味があります。同じ仕事を一緒にするのを「共同」、一つの目標に向かって各自の得意技を持ち寄り、調整しながら仕事をするのを「協働」と使い分けています。

「協働」は、メンバーの働きの調整がうまくいかないと感じますが、みんなが共通の目的をはっきりと理解し、お互いの気持ちや腕前を認め合うことができれば、そして作品の統一性を確保するための指示者がはっきりしていれば、



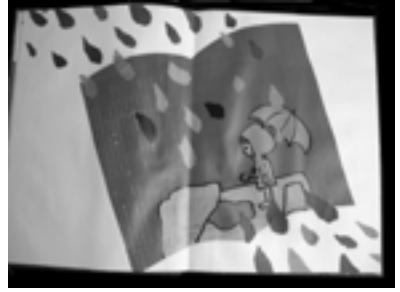
「手づくり絵本の会 プラス」の協働制作絵本



山岸さんの手作り絵本



『プラス』の本紙



『プラス』の本紙

各自の能力が充分に発揮できて、期待以上の成果を得ることができてきます。また、仕掛け絵本や触れる絵本のような、描画と比べて手数のかかる作品は、協働制作に馴染みやすいです。

六十八ページ上の写真は、「手づくり絵本の会 プラス」のメンバーがこころと力を合わせて作った手作り絵本です。三冊とも協働の仕方が違います。

◆ 『ばらがちょっとだけすきになったこねこ』

この作品は、ひとりがプロットを創り、ひとりがテキストを書き、ひとりが背景を、もうひとり人は人を描きました。そして最後に表紙デザインと製本をひとりが引き受けて、一ヶ月ほどで完成しました。

◆ 『大仏つつあん食べて』

この作品は、ひとりの個性を最大限に生かしながらの協働作業として、プロットから線画までをひとり担当し、彩色をみんなが分担し、最後にひとりが表紙デザインと製本を引き受けました。彩色は一日で完了しました。

◆ 『プラス』



大型の飛び出す絵本『桃太郎』（共同制作）

メンバー全員が集まり、各自が一ページずつ分担して新聞のカラー印刷部分をカラージュ風に貼りつけました。できたものを並べて絵柄からストーリーと構成をみんなで作え、みんなが手直しに参加し、丸一日で完成しました。最後にひとりが表紙デザインと製本を担当して仕上げました。

◆十三年前の学生が作った共同制作『桃太郎』

上の写真の大きな飛び出す絵本は、わたしが奈良教育大学へ転任してはじめて担当した「初等教科教育法 図画工作」受講生の共同制作です。小学校の教材として、グループでテーマを決め自由制作しました。わたしが前任校で飛び出す絵本を作った話をしたら、六名の学生が興味をもち、大型絵本に取り組んだのです。この飛び出す絵本は、開くと縦六十センチ、横八十七センチになります。

二ミリの厚い黄ボール紙を使い、上から色画用紙を糊づけして桃太郎や鬼を作っています。腕が動く

ように肩のところには割りピンを使っています。表紙は木綿の布で装丁し、頑丈に作っているのでも飛び出す仕組みは動きません。

十三年前、完成した作品をみんなに見せた時の六名の晴れやかな顔が思い出されます。